

令和7年度進行管理 戦略点検シート

◎基本政策 2 健康で安心な生活基盤の整備

主要課題	No. 27	がん対策の推進
------	--------	---------

● 4年後の目指す姿・計画期間の方向性 ●

4年後の 目指す姿	区民が、がんに関する正しい知識を持ち、主体的ながん検診の受診が促されるとともに、がん患者及びその家族ががんと共生しながら自分らしい地域生活を送っている。
計画期間 の方向性	〇がんに関する知識の普及と検診受診率の向上 がんに関する正しい知識の普及啓発を推進するとともに、国の指針に基づく検診を実施し、がんの早期発見・早期治療に向けて、受診率の向上に取り組んでいきます。 〇がん患者等の地域生活に向けた支援の推進 がん患者及びその家族が、がんと共生しながら自分らしい地域生活を送れるよう、必要な支援の充実を図ります。

事業費（令和6年度） 上段：実績 下段：当初予算

1 どのような事業で何をしたか（実績）

事業番号	事業名称	所管課	事業の持つ役割							事業費(千円)
110	各種がん検診の実施	健康推進課	がんの早期発見・早期治療につなげ、区民の主体的ながん予防を促進する。							690,017千円 (723,548千円)
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)
	① 胃がん検診受診率	% (受診者数)	15.1 (10,106)	14.9 (10,074)	16.4 (11,142)					
	② 大腸がん検診受診率	% (受診者数)	26.6 (18,816)	26.4 (18,841)	27.1 (19,532)					
	③ 肺がん検診受診率	% (受診者数)	28.6 (20,200)	28.5 (20,315)	30.0 (21,537)					
	④ 子宮がん検診受診率	% (受診者数)	41.1 (11,715)	40.0 (11,711)	41.0 (12,561)					
	⑤ 乳がん検診受診率	% (受診者数)	39.1 (7,904)	38.6 (8,238)	40.4 (8,791)					
	※修正…④のR5の実績									
111	がん知識の普及・啓発	健康推進課	がんに関する適切な知識を普及・啓発する。							678千円 (750千円)
			主な取組実績		単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)
	① 啓発事業の実施回数		回	5	9	14				
	R5(2023)	コロナ禍以降は講演会は中止し、それに代わる普及・啓発を実施しております。10月の乳がん月間に区内4か所の銭湯で「ピンクリボンの湯」及びミニ講話を実施したほか、ピンクリボンキャンペーンとして、乳がん検診の受診勧奨及び乳房を意識する生活習慣についてのパネル展示等を行いました。また、2月の国際小児がんデーに「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催し、小児がんの理解促進を図りました。さらに、3月の女性の健康週間に「Women's Health in Bunkyo」と題して啓発イベントの開催や、区内女子大学等へ啓発物を配架する等、乳がん及び子宮がんの知識の普及に努めました。								
R6(2024)	9月のがん征圧月間にはがん啓発イベントを開催し、5つのがんの予防や検診及び療養について啓発しました。また、10月の乳がん月間に乳がん検診の受診勧奨や乳房を意識する生活習慣について、区民ひろばで啓発ミニブース設置や動画放映を行った他、区内4か所の公衆浴場でピンクリボンの湯の実施及び区内大学祭で乳房がんモデル触診体験を実施しました。さらに、2月の国際小児がんデーに小児がんの子どもたちの絵画展の実施し小児がんの理解促進や、3月の女性の健康週間の女性の健康啓発イベントで乳がんや子宮がんに関する啓発に努めました。									

健康・体力増進事業	教育センター	子どもたちの健康に対する理解を深める。							38,595千円				
									(40,346千円)				
		主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
		① がん教育ゲストティーチャー派遣校数					校	21	22	22			
24	R5(2023)	小学校第6学年・中学校第2学年を中心に、地域にある医療機関と連携した外部講師を派遣し、がんについての正しい知識や自他の健康と命の大切さを学ぶとともに、がん患者や家族等のがんと向かう人々に対する共感的な理解を深め、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を図っています。											
	R6(2024)	地域にある医療機関と連携した外部講師を派遣し、小学校第6学年・中学校第2学年を中心に、がんについての正しい知識と、がんに向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図っています。											
がん患者支援	健康推進課	がんの治療に伴う外見の悩みに対し、心理的・経済的な負担を軽減する。							12,823千円				
									(25,152千円)				
		主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
		① がん患者ウィッグ購入費用助成者数					人	95	212	156			
112	R5(2023)	令和5年度より、ウィッグに加え胸部補整具も助成対象商品としたほか、1商品当たり10万円/回、1人2回まで助成をすることで、がん治療に伴う脱毛や乳房切除による心理的・経済的負担の軽減を図ることができました。											
	R6(2024)	がん治療による脱毛や乳房切除等により外見の変化に悩んでいるがん患者に対して、これを補うためのウィッグ、胸部補整具の購入等に係る費用の一部を助成しました。											
骨髄移植ドナー支援制度	予防対策課	骨髄移植ドナー等の経済的負担を軽減し、骨髄等提供希望登録者の増加を図る。							298千円				
									(508千円)				
		主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
		① 骨髄移植ドナー助成金交付者数					人	4	1	1			
② 骨髄移植ドナー助成金交付事業者数					件	2	0	1					
骨髄移植など特別の理由による任意予防接種費用助成制度	予防対策課	感染症の発生予防等を図るとともに、経済的負担を軽減する。							120千円				
									(345千円)				
		主な取組実績					単位	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)
		① 任意予防接種費用助成金交付者数					人	1	2	3			
●特記事項（実績の補足）													

2 社会ではどのような動きがあったか（社会環境等の変化）		人口の増減や、国や都の動きなど、主要課題の背景に関して「何があったか」「今後予想される」等の社会の変化を捉えています。
チェック	チェック項目	
無	主要課題に関連する法改正があった（今後、法改正がある）	
無	主要課題に影響を及ぼす変化等があった（今後、変化等の可能性がある）	

3 成果や課題は何か（点検・分析）		1と2に基づき、計画期間の方向性ごとに「課題解決にどのような成果があったか」「成果が出ない要因は何か」「新たな課題が生じてないか」などを点検・分析します。
○がんに関する知識の普及と検診受診率の向上		
がん検診の実施に当たっては、これまでの受診勧奨及び再勧奨に加え、受診対象であるすべての方に必要な情報を届けるため、令和6年度よりがん検診案内はがきを40歳以上のすべての区民に送付し、機会の周知に努めました。各種がん検診の受診率は、案内はがきによる周知もあり、全検診で増加となっています。今後、案内はがきをより分かりやすい内容に見直していく必要があります。 乳がん及び子宮がんに関する知識の普及・啓発を継続して行うとともに、9月のがん征圧月間には5つのがん（胃・大腸・肺・乳・子宮）の予防や検診及び療養について啓発するなど、がんに関する適切な知識の普及・啓発を行いました。 また、外部講師（がん専門医）による授業を継続的に行うことで、児童・生徒のがんに対する理解を深め、生活習慣を見直すことに対する意識を高めることができています。		

〇がん患者等の地域生活に向けた支援の推進

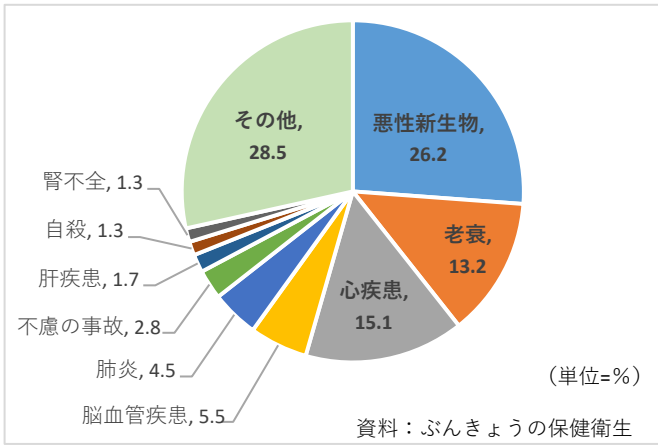
骨髄移植ドナー支援制度については、平成30年度の制度開始以来、制度周知を図るため広報を実施してきました。区内大学等に対する啓発チラシの配布等、引き続き制度の周知を行っていきます。

がん治療による外見の変化に悩みを抱えているがん患者に対しては、これを補うためのウィッグ、胸部補整具の購入等に係る費用の一部を助成することで、心理的・経済的負担を軽減し、がんになっても自分らしく社会生活を送るための支援につながりました。

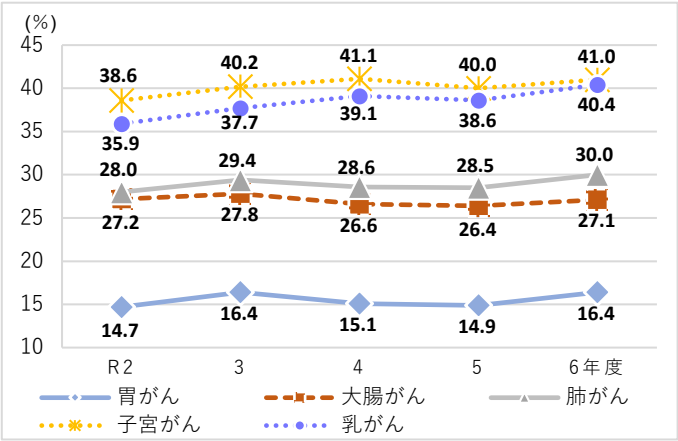
7年度から、若年がん患者在宅療養支援事業を開始し、がんで療養する40歳未満の方が、住み慣れた自宅で安心して療養生活を送ることができるよう支援していきます。

引き続き、がん患者等に療養に必要な情報を届けるとともに、孤立を防ぐための取り組みが必要です。

●主要死因別死亡の割合（令和4年）



●各種がん検診の受診率



【SDGsの視点】

3 すべての人に健康と福祉を	がん検診の実施に当たっては、これまでの受診勧奨及び再勧奨に加え、受診対象であるすべての方に必要な情報を届けるため、6年度よりがん検診案内はがきを40歳以上のすべての区民に送付し、機会の周知に努めました。 骨髄移植ドナー支援制度については、骨髄ドナーの経済的負担を軽減することにより、骨髄等移植の推進及びドナー希望登録者の増加を図り、全ての人々に必要とする保健サービスが提供される環境整備に努めます。
4 質の高い教育をみんなに	健康教育の一環として、がんについての正しい知識や自他の健康と命の大切さを学ぶとともに、がん患者や家族等のがんと向かう人々に対する共感的な理解を深め、共に生きる社会づくりに寄与する資質・能力の育成を図っています。

4 今後どのように進めていくか（展開）

3を踏まえ、「何の対応が必要か」「何をどのようにしていくか」など、今後の戦略としての進め方を記しています。

生活習慣改善や検診の意義及び療養等のがんに関する正しい知識の啓発を継続していくとともに、引き続き、小・中学校において地域の医療機関と連携した外部講師の活用により、がん教育の充実を図っていきます。

また、がんになっても安心して地域生活を送ることができるよう、アピアランスケアや若年がん患者への在宅療養支援を進めていくとともに、療養資源の情報整備やがん患者交流会を進めていきます。

骨髄移植ドナー支援制度については、ドナー登録者の増加につながるよう、制度周知を図るための広報活動を継続的に実施します。